

何ねらう 社会保険業務の「市場化テスト」

営利化への一里塚

国の行政責任の放棄

憲法25条を活かし、医療、年金、介護制度の充実を

国民のもっとも切実な要求は、社会保障制度の改善です。ところが政府は、医療、年金、介護など社会保障制度を連続して改悪してきました。その上に、社会保険業務を民営化し、もうけの対象にしようとしています。国民はたまったものではありません。

■国民いじめの社会保障構造改革

政府・小泉内閣は、国民には「自分のことは自分で（自律自助）」とあって、「社会保障構造改革」を押し進め、社会保障予算を抑制、削減しています。

こうした一方、「公務の民間開放」などあって、「市場化テスト（官民競争入札）」なる手法を打ち出し、年金・医療などの社会保険業務をターゲットにしています。企業の利益のために、国の責任をますます縮小、後退させることは許されません。

■社会保険行政は国の責任で充実を

社会保険業務の「市場化テスト」による「民間開放」は、基本的な人権を保障すべき国の責任放棄、後退を意味し、国民の安心を奪いかねません。

憲法25条は、国民の生存権を保障するとともに、社会保障の水準を高めることを義務づけています。国の責任は著しく重いものです。年金・医療制度は、社会保障制度確立の中心をなすものです。制度と体制を充実させることこそ、国の責任です。



国公労連

日本国家公務員労働組合連合会

東京都港区西新橋1-17-14 リバティ14 3F
TEL.03-3502-6363 www.kokko-net.org/